

## 情報連絡員からの報告（要旨）

### 《製造業》

#### 食料品製造業

1. <北海道 飲料 >  
10月はGoToトラベルやイート、各自治体独自のキャンペーンにより個人消費が上向いる。特に飲食業、観光業は活気が戻りつつある。一方、中小の清涼飲料メーカーで昨年実績を上回っている所は少ない。
2. <宮城県 味噌醤油 >  
GoToキャンペーンの影響か、観光名所への宿泊客が増加、若干だが前月より動きが出てきた。一方、飲食業の動きが悪く、県内の感染者数を減少させない限り、消費者が安心して食事出来ない状況が続く。
3. <福島県 漬物 >  
GoToトラベルで東京都民が動き出し、ホテル・旅館が良くなってきた。クーポンも利用できるため、お土産関係も徐々に良くなってきている。
4. <群馬県 パン・菓子製造業 >  
GoToトラベルなどの消費喚起策によりお客様が戻りつつある。売上が前年並みに回復したが、立地によっては立ち遅れているところもある。学校給食は元に戻ったようだ。
5. <新潟県 めん類製造業 >  
土産物に関してはGoToトラベルによる受注増がみられる。飲食店は繁華街の回復は低いが、それ以外は80%程度まで回復。GoToイートは普及次第では好影響が期待されるが、まだまだ広まっていない。
6. <山口県 パン・菓子製造業 >  
GoToキャンペーンもあり、10月に入って公共交通機関売店は6~7割回復してきた。地域共通クーポンの利用者が、コンビニやスーパーに流れることが多く、制度に配慮が欲しいところである。

#### 繊維・同製品製造業

7. <秋田県 繊維 >  
新型コロナウイルスの影響でアパレルメーカーの売上が激減している。経済産業省から依頼された医療用ガウンを受注することによって、仕事の減少をカバーしていたが、ここにきて息切れ状態となっている。
8. <群馬県 その他の繊維製品製造業 >  
少しずつ動き始めているが、例年に比べるとまだまだといったところ。徐々に展示会等の開催が増えてきているが、なかなか数字に結びつかないのが現状である。
9. <福井県 織物工業 >  
産地の主力であるハイファッション系の織物については、定番を中心に緩やかではあるが戻しているが、高付加価値織物など本来産地として主力としてきたものについては、回復には程遠い状況である。
10. <愛知県 毛織物 >  
中国オンライン商談会も無事終わり、出展者アンケートをまとめているが、各社それなりの手ごたえがあったようだ。原反発注を受けた企業もあり、中国市場は日本より経済活動が進んでいるようだ。
11. <大分県 アパレル >  
新型コロナウイルスの影響で受注数が大幅に減少していたが、徐々にではあるが増加傾向にある。そうは言っても現状はまだ厳しい状況である。
12. <沖縄県 繊維・同製品 >  
かりゆしウェアの製造枚数は対前年同月比でほぼ横ばいとなっており、幸いにも新型コロナウイルスによる大きな影響はないものの、今後の動向を注視したい。

#### 木材・木製品製造業

13. <青森県 製材業 >  
スギ低質材（パルプ材）は、木質バイオマス発電に使用されるため、需要が年々増加し、低質材の争奪が激しい。木質バイオマス用材を扱っている製材所は、コロナ禍にあっても操業は順調といえる。
14. <秋田県 素材生産 >  
新型コロナウイルスの影響により、合板材工場の生産調整が進んだことにより原木の在庫が減少している。原木の需要が回復しており、11月からほぼ通常の供給体制に戻る見込みである。
15. <埼玉県 木材・木製品製造業 >  
原木関係では、仕事量は確保できているが、請負が多く収支的には厳しい状況である。
16. <香川県 木材 >  
コロナ禍のため営業活動が自粛傾向にあり、それに伴い木材の需要不振、在庫増加、価格不安定と負の連鎖になっている。
17. <大分県 木材 >

売上高は前年同月対比約10%程度減少している。丸太の価格は戻ってきているが、製品に価格転嫁できていないので収益は厳しい状況である。

18. <宮崎県 製材業 >  
10月の木製材業界において、原木相場は品薄感から総じて強気配で推移した。製品は少しずつだが注文数が回復しているが、コロナショックで下がった価格の値戻しに苦戦しており、総じて復調の気配はない。

## 紙・紙加工品製造業

19. <茨城県 段ボール >  
GoToトラベルなどで人が動いてきた影響で少し景気が回復してきたようだ。ただし、人が活動し始めたことにより新型コロナウイルスの感染者が増えてきているため、今後が心配である。
20. <群馬県 紙製容器製造業 >  
全体の売上はまだ減少しているが、11月から年末に向けて受注環境は改善されてきている。大手メーカーが価格を下げて受注を取りに来ているため、製品の値下げ圧力が強まるのではないかと懸念している。
21. <福井県 和紙工業 >  
政府のGoToキャンペーン関連の動きでやや動きが見えている。手すきの小間紙等にやや動きは感じられたが、現在は足踏み状態といえる。機械抄きは在庫がある現状で生産には反映されない。
22. <愛知県 段ボール >  
テレワークの影響から出張が減り、土産物が芳しくなかったが、GoToトラベルのクーポン配布が始まり土産物も動き出した。飲食関係はまだまだであるが、テイクアウト向けは堅調である。
23. <京都府 紙製容器製造業 >  
お土産関連がやや回復基調にあり、箱を供給していた企業は受注が戻りつつあるが、バレンタイン関連の箱受注は前年度に比べて60%程にとどまり、市場の縮小が予想される。
24. <佐賀県 パルプ・紙・紙加工品製造業 >  
GoToキャンペーン関係の印刷物も一部の業者では受注があったが、全体的には低調である。アフターコロナに向けて、デジタル化が進みますますペーパーレスが予測される。

## 印刷

25. <秋田県 印刷 >  
新型コロナウイルスの影響から、売上・利益がマイナスの企業が増加している。資金繰りの悪化は小規模事業者ほど大変な状態になっている。得意先の廃業が発生している。
26. <福島県 印刷・同関連業印刷 >  
GoToキャンペーンの効果から一部では持ち直しの効果が出てきているが、新型コロナウイルス感染者の増加も予断を許さず、イベント・会議・大会等の自粛に拍車をかけている状況に変わりない。
27. <神奈川県 印刷 >  
地域の事業者を支える動きが拡がりつつある。行政の調達・購買時に地元企業や環境・社会的な側面への取り組みが進んだ企業を優先的に取り扱う制度として、持続可能な開発目標（SDGs）に取り組んでいる。
28. <石川県 印刷業 >  
引き続き、製本の需要は低迷しており、各社前年比30~50%減少している。9月に再開された理事会も欠席者多数で中止となり、当面の間、組合活動は行わないこととなった。
29. <広島県 出版・印刷・同関連 >  
新型コロナウイルス拡大に関して、今後はいかに対策をして細心の注意を払いつつ開催する方向を模索するかという段階に入ってきた。印刷業界もニューノーマルを1つずつ積み重ねていく努力が必要である。
30. <宮崎県 印刷・同関連業 >  
前年度に比べ、50%以下の売上と生産高で、まだまだ回復する兆しが無い。現状では、賞与も支給できず、給与の減額、雇用の確保が困難になってくる。しかし、技術者の確保は必要であるため苦慮している。

## 化学・ゴム

31. <群馬県 ゴム製品製造業 >  
自動車関連等において、年度初めから続いていた受注減が急速に回復しつつある。一部メーカーでは、技能実習生の入国待ちを含め、人員確保が課題になっている。
32. <東京都 ゴム製品製造業 >  
厳しい状況が続いている。自動車関連の需要は若干増えているが、先が見えない状況であり、12月末には資金繰りが困難になる恐れがある。
33. <岐阜県 プラスチック >  
景況感は依然悪いものの、外食関連及び自動車関連は景気の底を脱したようであり、電子材料関連についても堅調に推移している。一方で、日用品関連の巣ごもり需要は低下傾向にある。
34. <京都府 プラスチック製品製造業 >  
景気は底を打ち、各指標でも前年同月対比、不変が増えてきている。しかしながら、回復の力強さは無い。年明け時に下方変動の可能性が大という見方が多い。
35. <岡山県 ゴム >

新型コロナウイルスの影響はまだ続く見通しだが、取引先の一部は回復してきている。原材料価格は、中国の需要回復、産出国の事情等により足元上昇しており、来年にかけて収益の悪化要因となる見込み。

36. < 広島県 プラスチック製品製造業 >  
自動車関連の売上・設備操業度は若干回復基調で、業界全体では未だ減少したままである。各社雇用調整助成金を活用しているが、入金に時間がかかり資金繰りに苦慮している。

### 窯業・土石製品製造業

37. < 茨城県 焼物 >  
GoToトラベルの効果からか週末の人出が増えてきた。笠間焼業界も含めて市内の関係団体によるイベントを正月明けに開催する準備をしているが、ここに来て大都市で感染拡大しており今後が心配である。
38. < 東京都 ほうろろ製品製造業 >  
新型コロナウイルスの感染拡大により、建材や高価格帯の家庭用品などの売上が大幅に減少した。一方、低価格帯の家庭用品は増加している。
39. < 三重県 伊賀焼 >  
徐々にであるが、来館者数、各窯元の売上ともに回復傾向にあるが、まだまだ先行きが見通せない状況が続くと思われる。陶芸体験については、県内移動の効果もあり、小学生、中学生の団体が特に多い。
40. < 徳島県 生コンクリート >  
10月の出荷数量は対前年同月比横這いで、前年同時期と比較して、官民工事とも計画通り出荷が進み新規工事発注も例年並みを維持している。懸念は依然として運転手の高齢化と人材不足が深刻な問題である。
41. < 熊本県 コンクリート製品製造業 >  
例年通り繁忙期に入り、工事量は増加してきている。しかし、コロナ禍の影響も重なり例年より少なめ。また、県南の災害需要はしばらく先のことになると思える。
42. < 沖縄県 コンクリート製品製造業 >  
10月は売上・出荷量ともに前年同月並みとなったが、引き続き厳しい状況である。現在、当組合組合員と琉球大学が共同で、サトウキビの搾りかす（バガス）を利用したコンクリート製品の開発を進めている。

### 鉄鋼・金属製造業

43. < 青森県 鉄鋼製造業 >  
見積依頼物件数はさらに減り、先行きはさらに不透明感が増している。他県では安値受注の動きも出てきているため、適正価格での受注を心がけるよう、今後も組合員同士の連携を強化していく必要がある。
44. < 新潟県 鉄骨製造業 >  
手持ち工事量は組合員によりバラツキがあるが、バラツキ幅が大きくなってきた。稼働率、受注価格も下がってきている。先行きが見通せない状況で不安感が増している。
45. < 富山県 めっき加工業 >  
電子部品関連は新型コロナウイルスの影響は全体的に少なく、スマホ関連は繁忙期に突入し昨年並みの水準。車載部品は7月から徐々に回復基調でピークへ。産業機械については5G向けが好調。
46. < 石川県 鉄素形材製造業 >  
繊維・工作・プレス機械はまだ厳しいが、建設機械は経済優先の動向もあり、世界中で景気対策のインフラ整備により在庫が不足し、10月より生産が急回復している。残業が必要な位に戻っている企業もある。
47. < 鳥取県 金属加工製造業 >  
建築関係は、県内中心の会社は物件が少ない為、仕事の確保が難しくなっているところもある。収益面では、建材（特に型鋼）価格上昇と元請けの受注競争により、厳しい状況となっている。
48. < 香川県 鍍金 >  
雇用調整助成金、経費削減、営業開拓等あらゆる手段を尽くし、コロナ禍を乗り切る努力をしている。自動車業界の持ち直しの情報も聞こえ、来たるべき回復に備え、多能工化等を怠らず進める所存である。

### 一般機器製造業

49. < 茨城県 工業団地 >  
対象7組合員の売上の増減率は前年同月比107%であった。新型コロナウイルスの影響払拭まではいかないが、海外市場での小型トラクター機械等の出荷が順調に伸びてきており、今後期待が持てる状況にある。
50. < 山梨県 業務用機械器具製造業 >  
業界では少しづつ受注が回復傾向となっているが、新型コロナウイルスの終息が見えず経済がダウンする不安もあるため先行きは不透明な状況である。
51. < 長野県 一般機械器具製造 >  
新型コロナウイルスに起因する計画休業の動きは全体的には変わらず。自動車、半導体製造装置等一部業種に生産拡大の流れが出始めている。まだ動きは鈍いものの最悪期は脱しつつある模様。
52. < 大阪府 印刷製本機械製造業 >  
出荷が止まっていたものが一時的に集中しているため、人員が足りない状況になっているところがある。しかしながら、新規受注は未だ低い状態である。
53. < 岡山県 工作機械 >

機械製造は受注状況が依然厳しい状況が続いている。建材・福祉機器のメイン建材部門は年内フル操業。福祉関連も来年1月までは高稼働の見込み。ただ、収益率は今一步であり量で確保している。

54. <山 口 県 一般機械器具製造業 >

大手車メーカーの関連では、これまでの減産体制が影響し受注難であり、先行き不透明のままである。中国と取引のある組合員は9月以降に再受注し、当分の間、稼働率は高い。

**電気機器製造業**

55. <群 馬 県 民生用電気機械器具製造業 >

決算や年末商戦に向けて繁忙期になっており、増産傾向が強まっている。災害に備えた自家発電機が好調を維持している。既存設備のメンテナンス需要は徐々に戻ってきているが、関東圏では動きがない。

56. <山 梨 県 電気機械器具製造業 >

10月は大手製造業(半導体、ロボット、車など)の生産が多少上向いてきている情報があるが、下請けである中小企業は依然、仕事量が少ない上に、コスト競争が激しく、先の見えない状況が続くと考えている。

57. <長 野 県 電子機械器具製造業 >

2035年までに中国が電気自動車に完全シフトするといっているので転換期を迎えている。経営者のかじ取りが重要であり、企業格差がかなり進むと思う。

58. <京 都 府 電機機械器具製造業 >

コロナ禍で停滞した組合事業を安全確保を図り積極的に再開した。経済活動の停滞は限度があり、WITHコロナの方策を探りながら事業を展開している。一部業態において回復傾向が認められている。

59. <兵 庫 県 電気機器製造業 >

政府の景気高揚施策は直接的に業界へ大きな影響もなく、世界的に消費がいつ戻るか不安な状態。生産がフルに戻るか否かも心配なところだが、コロナ前には戻らないと悲観シナリオで引き締めを図っている。

60. <福 岡 県 電気機械器具製造業 >

組合員の業況は大きな変化は見受けられないが、外国人技能実習生の受入れに関しては、福岡空港の入国が可能になったことにより、受入れ再開に動き出した。

**輸送用機器製造業**

61. <群 馬 県 自動車・同附属品製造業 >

地元の車関連においては前年と同等の生産量となった。しかし、2次請、3次請企業では、依然売上の確保と雇用維持に苦慮している。

62. <岐 阜 県 輸送用機器 >

受注の大幅減により景況感は悪化、派遣社員の継続契約が難しい状態。8月に緊急生産連絡会が開催され、更にボーイング機種の減産が進む見通しであり、機体部品以外から受注の獲得を目指していく。

63. <静 岡 県 輸送用機械器具製造業 >

組合員企業全体的には、大手メーカーの在庫調整の目的が立ち量産物は前年並みになってきたが、新規及び開発・設備関係が消極的な状況のため、その関連下請け企業は苦悩・苦戦している。

64. <愛 知 県 輸送機器 >

新型コロナウイルスの底は脱したとの声がある中、来期の方が今期より厳しいとの声もあり、影響は長引く見込み。経営上は需要の停滞、従業員の不足、同業者間の価格競争の激化などの問題がある。

65. <三 重 県 輸送用機器 >

この半年間ずっと停滞していた部品の受注がいくつかあり、徐々に需要の回復が感じられる。従業員の自然減や派遣社員の調整で需要の少ない時期をしのいでいたので、人員補充の採用活動を再開した。

66. <愛 媛 県 造船 >

外国人労働者の入国は現在検討している。再入国した者については、隔離が終了し就労を開始した。継続して消毒液の設置、マスクの配布等の感染対策を行っている。

**その他の製造業**

67. <福 島 県 漆器 >

百貨店ルートは動きが見られない。小売はGoToキャンペーンのクーポンを使う人が多く潤っている。しかし、消費税増税の影響は大きく、増税前の売上には及ばない。

68. <東 京 都 スポーツ用品製造業 >

アウトドア市場は、緊急事態宣言時の解除後は需要が例年以上に増加している。特に3密を避けられるキャンプの需要は好調である。日常で使用可能な汎用性のあるアイテムは引き合いも多い。

69. <神 奈 川 県 工業中心の複合業種 >

コロナ禍の低迷は続いている。各業種とも受注に波があり、安定しない状況。受注増の企業もある一方、10月はますます受注減になってきている企業もある。10月以降も先の見えない状況は続きそうである。

70. <愛 知 県 節句人形 >

全国的に節句シーズンに向けた立ち上げ時期になり、早くもひな人形目的の来店があったというニュースも聞こえる一方、これから始まる商戦への不安から、積極的な店作りができていない販売店が多い。

71. <兵 庫 県 その他製造業 >

GoToキャンペーンが好評で釣具業界も多少は恩恵を受け、各地の釣り場は大勢の釣り人で賑わっている。当組合の線材売上も9月～10月は徐々に増加傾向となったが、輸出は回復の見通しは立っていない。

72. < 奈良県 毛皮革 >

中国の原皮や製品などの輸出制限は続いており、輸入の目途が立たず、在庫で対応しているが、早急に検討する必要がある。東京の展示会に出展をした際、引き合いが多く今後に期待が持てる内容であった。

## 《非製造業》

### 卸売業

73. <岩手県 各種商品卸売業 >  
昨年と同時期に比べ、気温が低いのか厚物衣料やこたつ関連の商品が売れている。新型コロナウイルスの影響から在宅が多くなっていることに起因していると思われる。
74. <栃木県 各種商品卸売業 >  
新型コロナウイルスの影響を大きく受けていた企業も企業努力や取引業界の状況改善により若干回復の傾向がみられる。組合会館会議室の利用状況は、前年同月以上の利用があり大きく改善してきた。
75. <滋賀県 電気機械器具 >  
10月も引き続き、感染症対策として換気設備の見直しや、空気清浄機などの商品群が好調。エアコンは急激に気温が下がった影響もあり、販売ペースは鈍化した。
76. <大阪府 電気機器卸売業 >  
秋の需要期に入り各社、需要の好転を期待しているものの、冬場を迎え新型コロナウイルス感染症拡大による影響が先行き見通しについては不透明感を強めている。
77. <高知県 生鮮魚介卸売業 >  
マグロの入荷は少ないが、需要も少ないので間に合っている。カツオは順調に入荷している。小物のアジ、サバの入荷は少なく、サンマも高値で少ない。コロナ禍で仕出し、皿鉢はいまだに8割・9割減。
78. <鹿児島県 総合卸売業 >  
前年同月は消費税引き上げ直後の買い控えがあったため、前年同月比で売上は増加したが、新型コロナウイルスの影響や原材料価格値上げ等による業界環境の冷え込みは継続していると聞く。

### 小売業

79. <山形県 農業用機械器具小売業 >  
農水省の経営持続化補助金の給付決定があり、農業機械に新規投資する農家が増えてくることを農機販売店は期待している
80. <千葉県 中古車仕入・販売 >  
中古自動車のオークション事業は好調であった。
81. <福井県 菓子工業 >  
一部組合員ではネットによるギフトの販売数が伸びている印象。ハロウィンも10月にあったが、昨年度に比べれば売上は伸び悩んだ。12月には今年組合初のイベント、「幸せもちもち満腹祭」を開催予定。
82. <大阪府 二輪自動車小売業 >  
先月以上に新車の入荷が減少したため、在庫車両が不足して納車が来春になっている。その影響により中古車相場も上昇し、中古車の仕入れも厳しくなっている。
83. <島根県 自動車小売業 >  
島根県における10月の登録乗用車の新車販売台数は1,325台で、対前年月比は163.4%と大幅に増加した。やっと回復して通常の状態に戻ったものと思われるが、11月以降もこの状況が続くものか注視したい。
84. <長崎県 食肉販売 >  
小売では家庭の内食需要が引き続き堅調、業務用卸についても観光関連及び飲食店などに複合的な支援策の効果もあり、観光客の増加傾向に加え、地元客の利用も堅調で組合員の納品業務も回復基調であった。

### 商店街

85. <北海道 商店街 >  
10月はGoToトラベル、町独自の宿泊助成金の相乗効果に加え、地域内宿泊施設の連携により温泉地域全域に集客効果が表れ、ほぼ前年度並みの宿泊者数まで回復した。
86. <青森県 商店街 >  
令和2年度新しい生活様式対応組合等支援事業を活用し、プレミアム商品券を販売したところ、販売開始45分で1000セットが完売した。さくら野百貨店本店前には長蛇の列ができ、商店街の底力がみられた。
87. <奈良県 商店街 >  
「GoToトラベル」の地域共通クーポン、「奈良市プレミアム付商品券」、3商店街によるキャンペーンの「お買い物券」が流通し、「紙クーポン・電子クーポン・商品券」が乱立して店舗側が大混乱している。
88. <香川県 商店街 >  
飲食店なども客足は回復していない様子である。GoToトラベルの効果も地方小都市では実感がなく、地域クーポンが使える店も少ない。
89. <大分県 商店街 >  
10月はGoToトラベル・EATの影響もあり来客数は回復してきている印象である。全体の売上も前年同月対比80%程度まで回復している。例年実施しているイベントがないことで飲食店は依然厳しい状況である。

90. < 鹿児島県 商店街 >  
新型コロナウイルスの対策としてプレミアム付商品券を販売した結果、飲食店では商品券を利用する常連客に加えて新規客も増加した。しかしながら、全体では減少している。

## サービス業

91. < 青森県 葬祭業 >  
最近の新型コロナ感染の拡がり方を受け、益々葬儀の小規模化が進んでいる。また、改めて感染症対策を組合員一丸となって徹底することを再確認している。
92. < 千葉県 学習塾（県内全域） >  
AIを駆使した教育へと変化しつつある。そのためのスピードや資金などで、大手塾や予備校などに遅れをとっている。これは中小塾にとっては死活問題となる可能性が大である。
93. < 和歌山県 旅館・ホテル >  
10月はGoToトラベルキャンペーン事業の効果で観光旅館・ホテル等は、対前年度比180%~200%の売上高になっている施設も多く出てきていて、11月の予約状況も順調。
94. < 島根県 道の駅 >  
GoToキャンペーン等により観光客が戻りつつある。地域共通クーポン券の利用が非常に多く見受けられる（半月で当道の駅において200枚の利用があった）。
95. < 福岡県 旅館、ホテル >  
国のGoToトラベル事業は活況を呈している。難点を言えば、GoTo利用分（共通クーポン券を含む）の現金収入が40日経過後であり、キャッシュが手元から不足することから、不安を持っている施設がある。
96. < 沖縄県 ホテル旅館業 >  
GoToトラベルの効果は本島リゾート地や離島、高価格帯のホテルに集中している。那覇市内の施設（特に中小規模）は恩恵がないとの声が多いが、GoToトラベルキャンペーンで売上があるだけでも助かっている。

## 建設業

97. < 青森県 一般土木建築 >  
国土交通省では、コロナ禍でも、特定技能外国人受け入れのため、現地（ベトナム等）での受け入れ態勢を整えるとのこと。建設業は人手不足が問題であり、これからもそのような支援に期待したい。
98. < 岐阜県 室内装飾 >  
全体的に小規模工事が多く人手ばかりが必要となる。年末にかけても例年通りの受注は見込めず、減収減益となる見込みである。来年も現状では不安材料が多く、次年度に向けて営業活動を展開している。
99. < 静岡県 職別工事業 >  
新型コロナウイルスの影響を受けている産業中心に設備投資に慎重になっており、建設業も新規案件が減少している。少ない仕事を取りに行く、もしくはあっても価格交渉が難しくなっている。
100. < 愛知県 舗装工事 >  
工事着工も本格的になり、天候も涼しくなり稼働率も上がり、収益も上昇してきた。業界は経費の節減に努め、販路拡大を目指し人材の確保に取り組んでいる。
101. < 長崎県 建設業 >  
高校と大学の就職担当者によれば、新型コロナウイルスの影響からか、今年は就職先に地元を選ぶ学生が増加傾向にあるとの話を聞いた。このチャンスを逃さず、業界の若手担い手確保に繋げたい。
102. < 熊本県 鉄筋工事業 >  
復興工事が落ち着きつつあり、民間工事の入札競争が厳しくなっている。また、鋼材価格の上昇も予想されることから、元請けからの発注単価下落が懸念される。

## 運輸業

103. < 宮城県 タクシー >  
対前年比の実車率は8割程度であるが微増しており、好転とまでは言えないが、輸送収入も上昇気味にある。LPG価格の値上がり傾向が続いていたが、値上がり幅が大きくなった。
104. < 栃木県 貨物軽自動車運送業 >  
県内や同じ市内など、短い距離の引越し依頼が多くよせられた。巣ごもり需要を狙って、軽貨物事業を開業する企業が多く、この数ヶ月での登録数も多い。
105. < 静岡県 道路貨物運送業 >  
10月中旬以降、荷物情報が増えはじめ、回復基調がみられるが、相変わらず運賃は低迷している。荷動きが悪いため、運転手を交代で休ませている会社がある一方で、昨年並みに戻り始めている組合員もある。
106. < 三重県 トラック >  
燃料価格は9月に引き続き横ばいで推移した。国内景気は依然として厳しいが自動車関連を中心に持ち直しの動きが見られ、個人消費も回復基調であり、運輸業は自動車関連中心に取扱貨物量の増加が見られる。
107. < 京都府 道路旅客運送業 >  
GoToキャンペーンの東京解禁を受け、週末はその影響で観光地も混雑してきた。人との接触を避けるために自家用車での移動が多く、タクシーを利用しての観光や移動は、今のところそう多くない状況である。

108. < 高 知 県 一般貨物自動車運送業 >

荷動きは鈍くまだまだ回復しているとは言い難い状況、組合事業も前年度割れとなった。コロナ禍で、物量の減少、感染対策への経費は増加しており、今後、資金繰りの悪化が懸念される。

**その他の非製造業**

109. < 宮 城 県 不動産 >

新型コロナウイルス感染症の影響により、減少していた転居を伴う企業の異動が増え、賃貸物件の引合いが増加している。

110. < 千 葉 県 輸出入（県内全域） >

成田空港店舗はコロナ禍で営業ができず、大幅な減収減益が続いている。大半の店舗が休業状態であり、来年3月までの休業・営業時間短縮が承認され、家賃減免、支払期限の延長などの措置がされている。

111. < 神 奈 川 県 不動産 >

賃貸市場では、大手ハウスメーカーの新築物件は賃料は高いが、入居希望者は多く、賃料は高水準を維持している。今は高いか安いかで中間の家賃が無くなってきており、格差がハッキリしてきている。

112. < 富 山 県 不動産取引業 >

不動産会社への来店者数の減少や、賃貸物件での家賃滞納・解約等の申し出があり、コロナ禍が売買・賃貸の業績悪化に少なからず影響している。

113. < 兵 庫 県 物品賃貸業 >

新型コロナウイルス対策でのコストの上昇に対して契約単価の変更が後回しになっている現状で、実質の利益の大幅減少状態が続いている。

114. < 広 島 県 不動産業 >

不動産市場については、コロナ禍の影響による先行き不透明感はあるものの、低金利政策等により戸建て需要は堅調に推移している。マンション販売については、やや低調になってきている。